

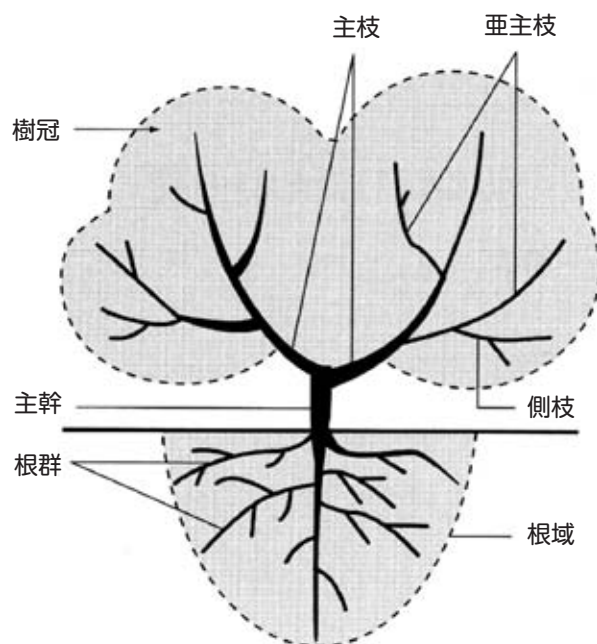
果樹の整枝・せん定

1. 整枝・せん定の目的

- (1) 枝や葉の成長と、果実の成る数を調整し毎年収量を上げられるようにする。
- (2) 樹全体に日射が十分いきわたるように枝を配置して、品質のそろった優良な果実を成らせる。
- (3) 薬剤散布や収穫・摘果などの作業性を良くする。

2. 枝の種類とよび方

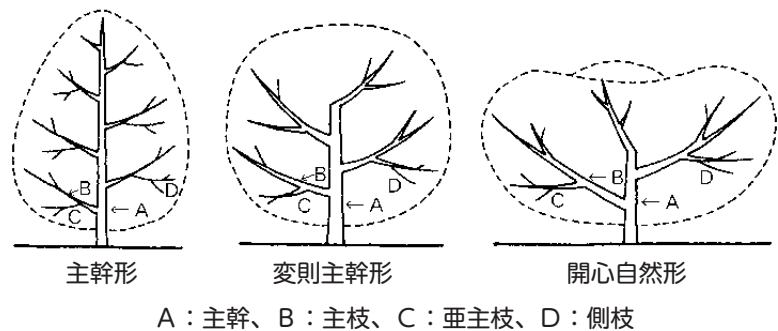
- (1) 樹冠…枝や葉が広がっている範囲をいう。
- (2) 主幹…地表から最上位の主枝の分岐部までをいう。
- (3) 主枝…主幹から発生する幹について太い骨組みとなる枝である。下段から上段に向かって、第1・第2・第3主枝と呼ぶ。
- (4) 亜主枝…主枝から分岐した枝で、側枝、結果枝などをつけ、主枝と並んで骨組みになる枝をいう。
- (5) 側枝…結果枝・結果母枝をつける枝をいう。
- (6) 結果枝…花芽をつけて翌年開花結実する枝をいう。樹種によるちがいはあるが、長果枝（30～60cm）、中果枝（10～30cm）、短果枝（10cm以下）に分けられる。
- (7) 結果母枝…花や果実をつける結果枝を出す枝で、柑橘、ブドウ、柿などにみられる。
- (8) 徒長枝…枝の直上などから発生して長く伸びた枝をいう。



3. 整枝法と樹形

果樹の整枝法は、立木仕立てと棚仕立てに大別されます。

[樹形の呼び方 (立ち木仕立て)]



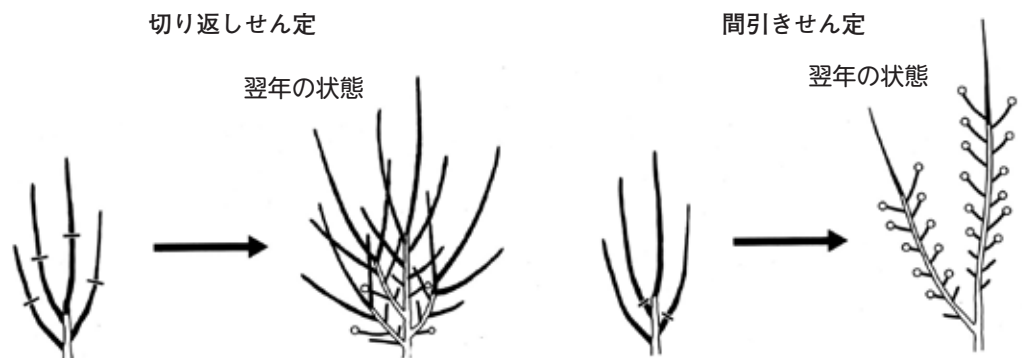
4. せん定の種類

枝を途中で切る切り返しせん定と、枝の発生部や分岐部からすべてを切り取る間引きせん定とがある。

- 切り返しせん定**……①先端部を強く伸ばして骨格となる枝を育てる (強く切り返す)
 ②結果枝や側枝の先端を弱らせない (先端をかるく切り返す)
 ③先端が垂れた枝の勢力を回復したい (切り戻し、切り上げともよぶ)

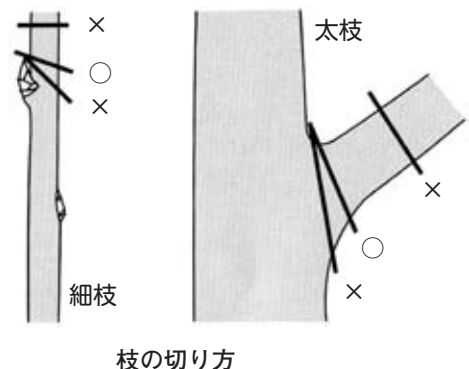
- 間引きせん定**……①混みあった枝や重なりあった枝を除く
 ②残したい枝と太さが競合する枝を除く

※切り返しせん定に比べて残した枝の勢いが落ち着き、結果枝や花芽がつきやすくなる。



5. せん定の手順

- ①まず目標とする樹形をイメージして、骨格となる枝の配置や混み具合などを観察する。
- ②必要のない太い枝の間引き、骨組みとなる太枝の整枝をする。
- ③側枝や結果枝・結果母枝の間引き、切り返しなどを行う。



6. せん定の時期

せん定の時期は大きく分けて、樹の活動が緩慢な時に行う冬期せん定と、夏期の発育期間中に行う夏期せん定があります。

(1) 冬期せん定

・落葉果樹…落葉後から翌春の萌芽期までに行いますが、開花期、樹液流動、切り口の癒合などで品目により時期が異なります。

- ①早い方がよいもの：うめ、ぶどう、キウイフルーツ
- ②なるべく早い方がよいもの：もも、すもも、あんず、なし
- ③厳冬期を避けた方がよいもの：いちじく、りんご
- ④遅くてよいもの：かき、くり

・常緑果樹…①柑橘類：3月～4月上旬

②びわ：9月下旬～10月

(2) 夏期せん定と新梢管理

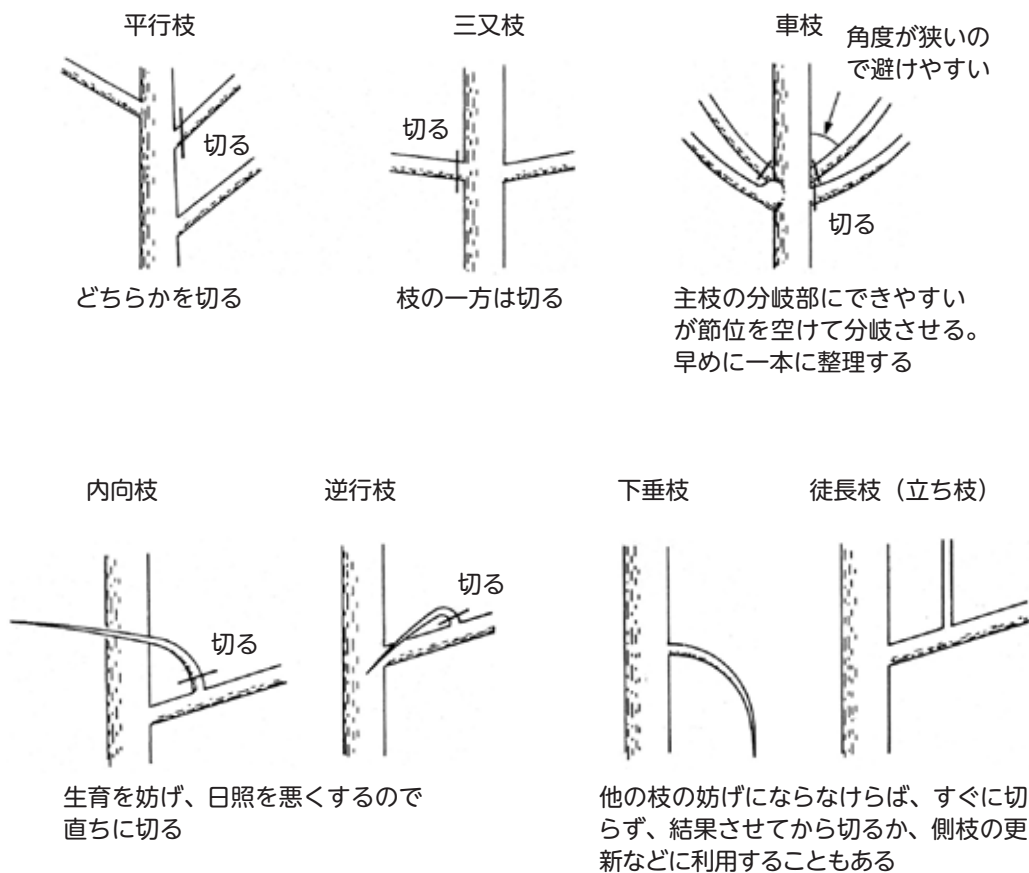
- ①せん定（徒長枝などの切除）
- ②芽かぎ
- ③捻枝
- ④摘心
- ⑤誘引

7. 結果習性（各項を参照）

結果習性は樹種によって異なるため、良く理解しせん定にあたってください。

8. 生育や樹形を乱す枝とその扱い

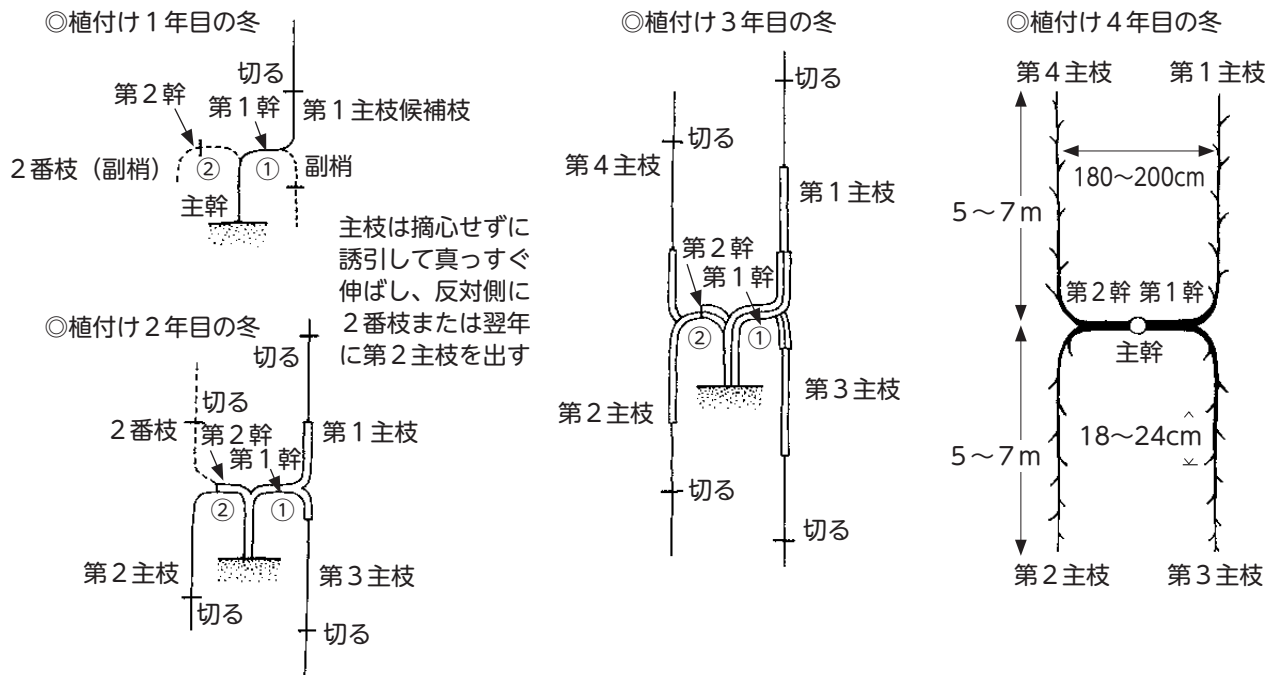
生育や樹形を乱す枝とその扱い



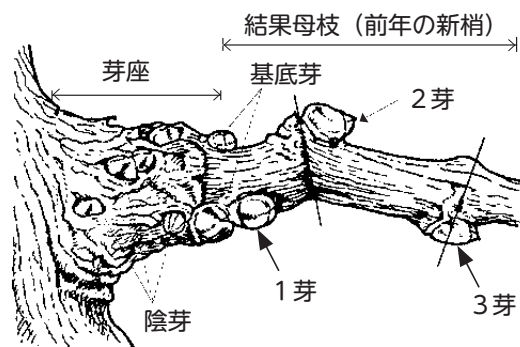
※樹種や地域によっては、ここで述べた枝の呼び方や扱い方があてはまらない場合もありますのでご了承ください。

9. 品目別せん定方法

(1) ぶどう



H字型整枝法の仕立て方(平坦地の場合)

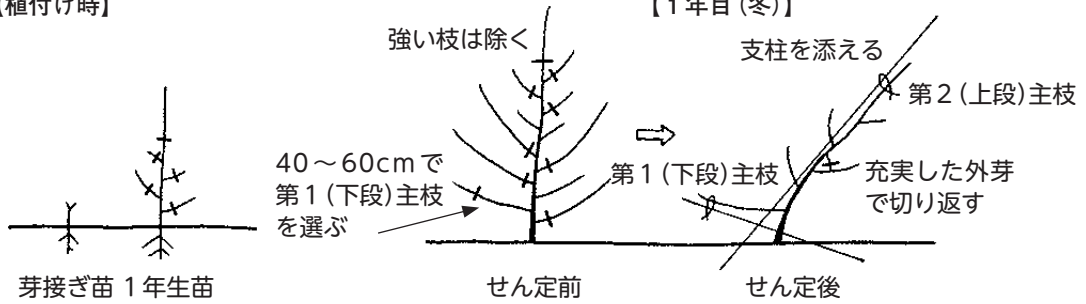


2芽または3芽の直上で切る(犠牲芽せん定)

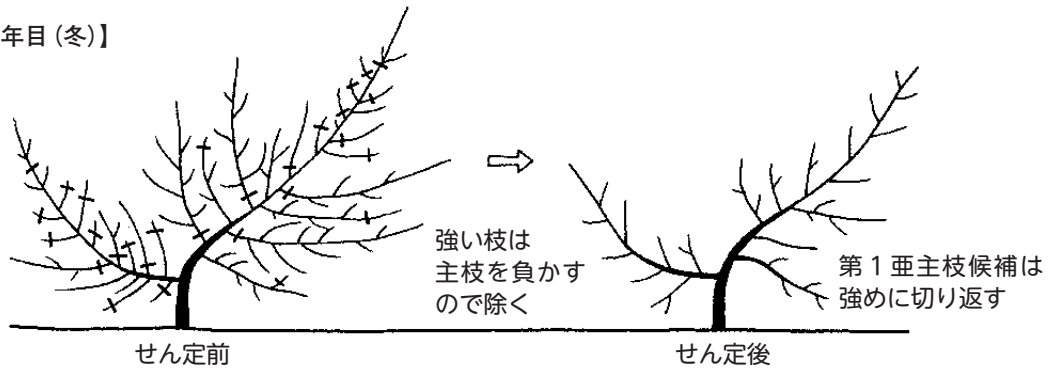
結果母枝とそのせん定

(2) 核果類 (もも、すももなど)

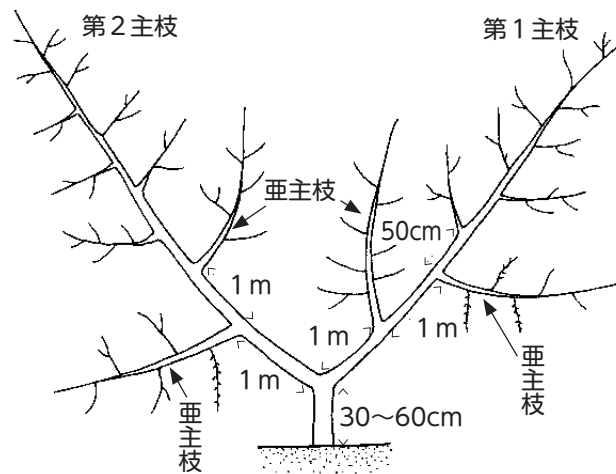
【植付け時】



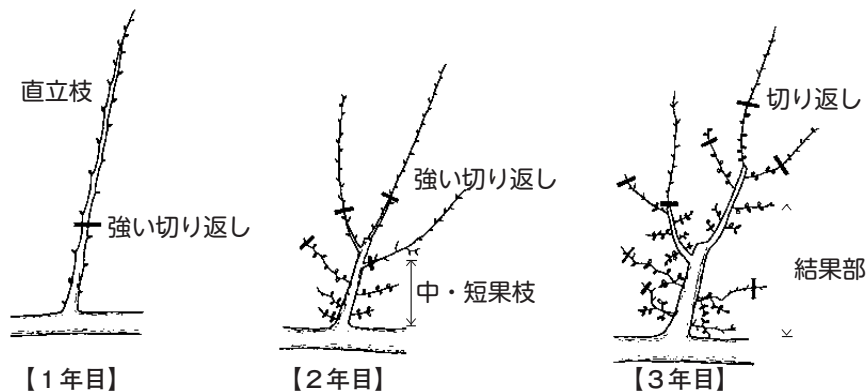
【2年目(冬)】



2本柱枝開心自然形の整枝とせん定の例

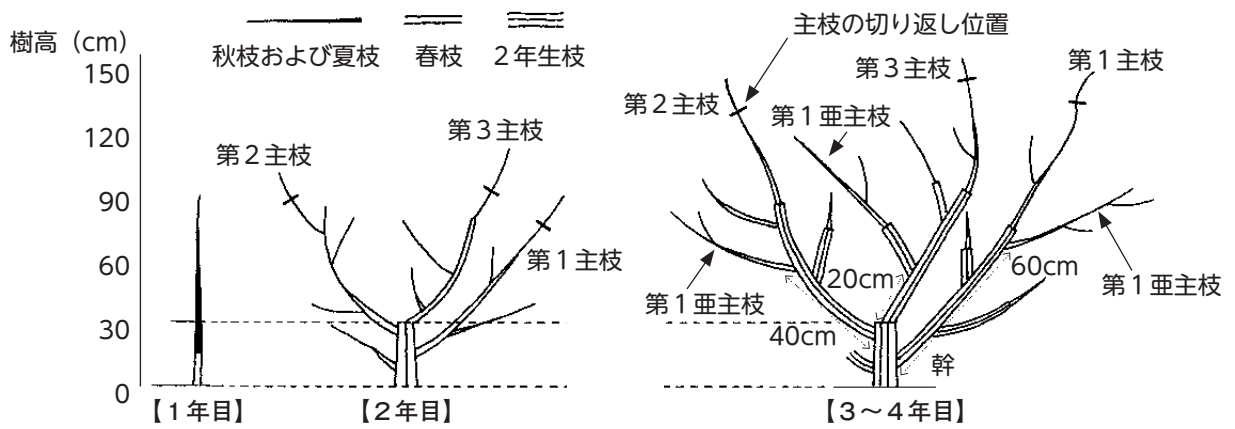


2本柱仕立ての樹形 (開心自然形)

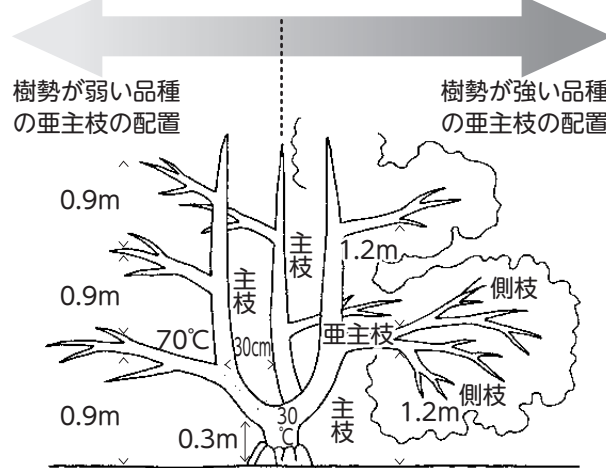


直立した強い枝を利用して結果部をつくる方法
主枝、亜主枝基部のはげ上がり防止に有効な方法である

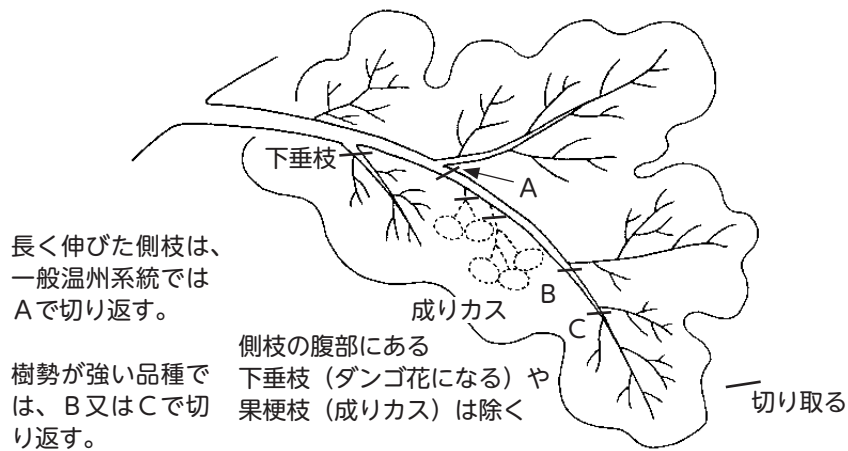
(3) 柑橘



開心自然形の仕立て方 (柑橘の例)



みかんの一般的な樹形 (開心自然形)



側枝のせん定